

令和元年 7 月 30 日

令和元年度

奈良県中学校教育課程研究集会

総合的な学習の時間

奈良県教育委員会事務局

指導主事

学校教育課

堺 隆宏

本日の内容

- I 休業日等における総合的な学習の時間の学校外の学習活動の取扱いについて
- II 学習評価について
- III 主体的・対話的で深い学び
- IV 考えるための技法の活用
- V 教科等横断的な視点に立った資質・能力
- VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

I 休業日等における総合的な学習の時間の学校外の 学習活動の取扱いについて

Ⅱ 学習評価について

学習評価について指摘されている課題

学習評価の現状について、学校や教師の状況によっては、以下のような課題があることが指摘されている。

- ・ 学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない
- ・ 現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない
- ・ 教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい
- ・ 教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない
- ・ 相当な労力をかけて記述した指導要録が、次の学年や学校段階において十分に活用されていない

先生によって観点の重みが違うんです。授業態度をととても重視する先生もいるし、テストだけで判断するという先生もいます。そうすると、どう努力していけばよいのか本当に分かりにくいんです。

(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ第7回における高等学校三年生の意見より)



生徒の意見

学習評価の改善の基本的な方向性

学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要。

- ✓ 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ✓ 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ✓ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

次の授業では
〇〇を重点的に
指導しよう。



〇〇のところは
もっと~した方が
よいですね。



指導と評価の一体化の必要性の明確化

学習指導要領の総則において指導と評価の一体化の必要性が明確化された。

○学校教育法施行規則(抄)

第二十四条

校長は、その学校に在学する児童等の**指導要録**(学校教育法施行令第三十一条に規定する児童等の学習及び健康の状況を記録した書類の原本をいう。以下同じ。)を作成しなければならない。

第五十七条

小学校において、各学年の課程の修了又は卒業を認めるに当たっては、児童の平素の成績を評価して、これを定めなければならない。※中学校、高等学校についても同様に規定。

指導要録の作成や
成績の評価について規定

○平成29年改訂小学校学習指導要領 第1章 総則

第3 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

(1) 第1の3の(1)から(3)までに示すこと(引用注:資質・能力の3つの柱の育成)が偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。(略)

2 学習評価の充実

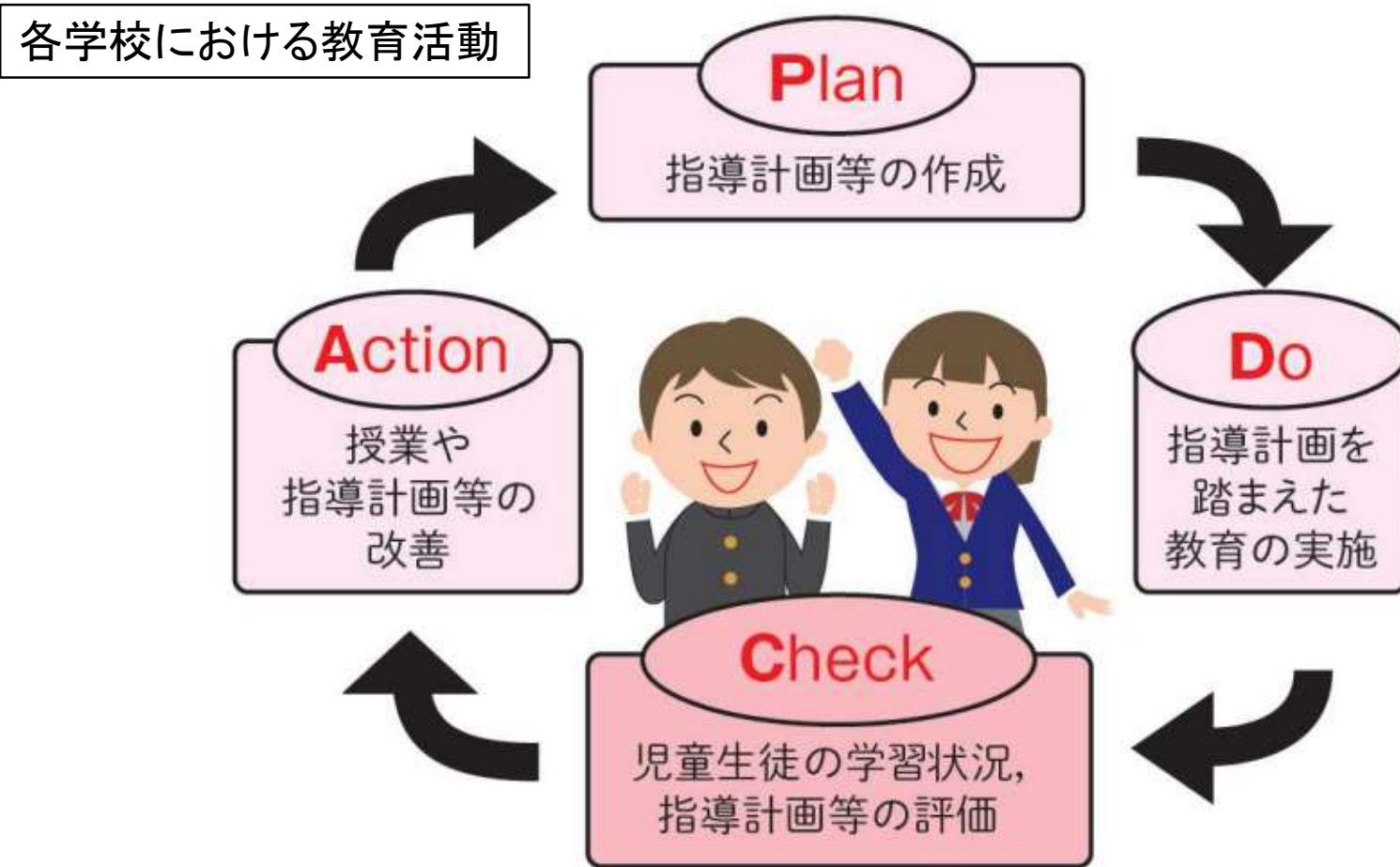
(1) 児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

指導と評価の一体化の
必要性を明確化

※平成29年改訂中学校学習指導要領第1章総則にも同旨

カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っている。



「学習評価の在り方ハンドブック」

〈内容〉

- 学習評価の基本的な考え方
- 学習評価の基本構造
- 特別の教科 道徳, 外国語活動, 総合的な学習の時間及び特別活動の評価について
- 観点別学習状況の評価について
- 学習評価の充実
- Q & A

等



全国の教育委員会等や学校等に送付

国立教育政策研究所のウェブページに掲載

観点別学習状況の評価の観点の整理

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理。

<現行>

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

<新>

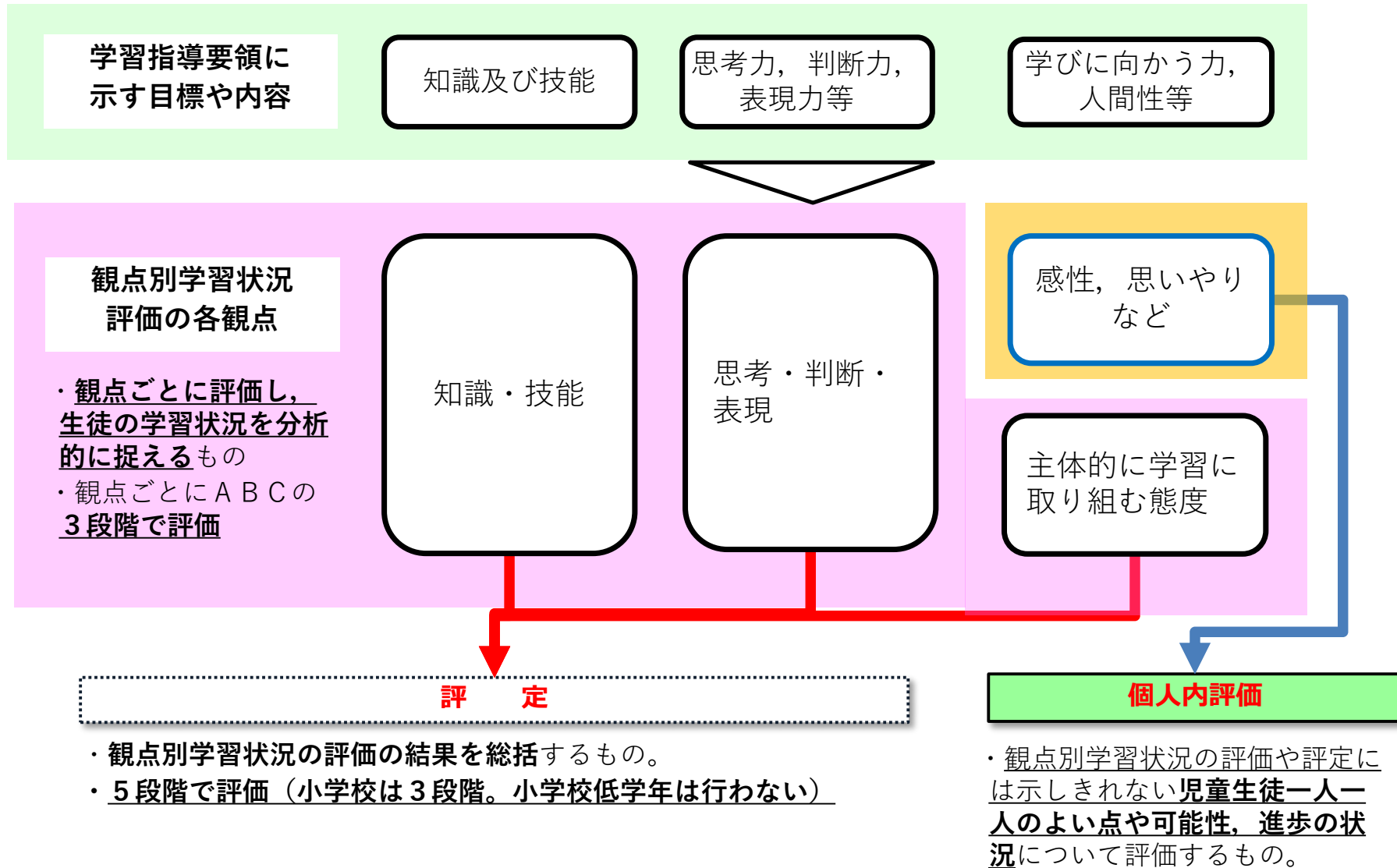
知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度

各教科における評価の基本構造

- ・各教科における評価は、**学習指導要領**に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（**目標準拠評価**）
- ・したがって、**目標準拠評価**は、**集団内での相対的な位置付け**を評価するいわゆる**相対評価**とは異なる。



「知識・技能」の評価

- 個別の知識及び技能の習得状況について評価する。
- それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。

※上記の考え方は、現行の評価の観点である

- ・「知識・理解」(各教科等において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているかを評価)
 - ・「技能」(各教科等において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかを評価)
- においても重視。

<評価の工夫(例)>

- ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。
- 実際に知識や技能を用いる場面を設ける。
 - ・児童生徒に文章により説明をさせる。
 - ・(各教科等の内容の特質に応じて、)観察・実験をさせたり、式やグラフで表現させたりする。

「思考・判断・表現」の評価

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

※上記の考え方は、現行の評価の観点である「思考・判断・表現」の観点においても重視。

<評価の工夫(例)>

- 論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れる。
- ポートフォリオを活用する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価 I

「学びに向かう力, 人間性等」には, ①主体的に学習に取り組む態度として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と, ②観点別学習状況の評価や評定にはなじまない部分がある。

学びに向かう力, 人間性等

観点別学習状況の評価にはなじまない部分
(感性, 思いやり等)

②

「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取することができる部分

①

個人内評価(児童生徒一人一人のよい点や可能性, 進歩の状況について評価するもの)等を通じて見取る。

※ 特に「感性や思いやり」など児童生徒一人一人のよい点や可能性, 進歩の状況などについては, 積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要。

知識及び技能を獲得したり, 思考力, 判断力, 表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で, 自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

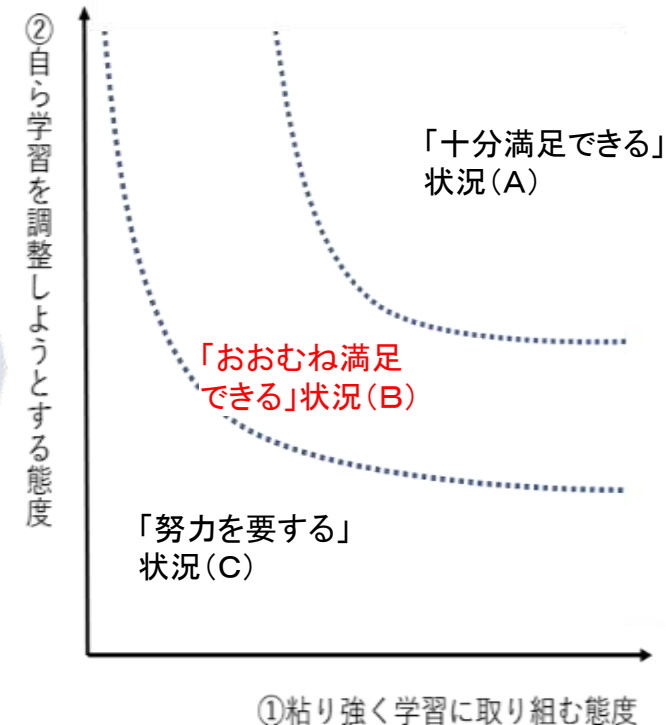
「主体的に学習に取り組む態度」の評価Ⅱ

「主体的に学習に取り組む態度」については、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面を評価することが求められる。

○ これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



「主体的に学習に取り組む態度」の評価Ⅲ

＜評価の工夫(例)＞

- ノートやレポート等における記述
- 授業中の発言
- 教師による行動観察
- 児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる

※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行う。
(例えば、ノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではない。)

評定について

- ・評定を引き続き指導要録上に位置付ける。
- ・学習評価の結果の活用の際には、観点別学習状況の評価と、評定の双方の特長を踏まえつつ、その後の指導の改善等を図ることが重要。

評定：各教科等の観点別学習状況の評価の結果を総括的に捉え、教育課程全体における各教科の学習状況を把握することが可能なもの。



評定が観点別学習状況の評価を総括したものであることを示すため、指導要録の参考様式を改善。

(例) 小学校国語

観点\学年		1	2	3	4	5	6
国 語	知識・技能						
	思考・判断・表現						
	主体的に学習に取り組む態度						
	評定						

※従前の参考様式においては、観点別学習状況の評価を記入する欄と評定を記入する欄は離れた場所にあった。

教科等横断的な視点で育成を目指すこととされた資質・能力の評価

教科等横断的な視点で育成を目指すこととされた資質・能力についての評価は、各教科等における観点別学習状況の評価に反映する。

言語能力や情報活用能力, 問題発見・解決能力など

教科等横断的な視点で育成を目指すこととされた資質・能力は、各教科等の学習の文脈の中で育成した上で、横断的に発揮されるようにすることが重要。



- ①各教科等の指導と評価の一体化を図る中で資質・能力を育成した上で、
- ②それらの資質・能力が教科等横断的に関連付け発揮されるようにすることが重要。

※したがって、例えば、各教科等の評価規準とは別に、教科等横断的な資質・能力に関わる評価規準を設定し評価することは必ずしも必要ではない。

小・中学校「特別の教科 道徳」に係る評価

○新学習指導要領(特別の教科 道徳)

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。

ただし、数値などによる評価は行わないものとする。



道徳科の学習評価の在り方、指導要録の参考様式について、
平成28年7月29日付で都道府県教育委員会等に通知

【基本的な考え方】

- **数値による評価ではなく、記述式**とすること、
- **個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価**とすること、
- **他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価(※1)**として行うこと、
- 学習活動において児童生徒がより**多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視すること
- **調査書(いわゆる内申書)に記載せず、中学校・高等学校の入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要(※2)**

※1 観点別学習状況の評価や評定には示しきれない子供たち一人一人のよい点や可能性、
進歩の状況について評価

※2 平成30年3月30日付事務連絡において、再周知



総合的な学習の時間の評価

行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。(従前と同様)

改善等通知
小学校児童指導要録(参考様式)
様式2(指導に関する記録)表面

各学校は、学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標(小学校では、第5章第1)及び学校教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間の目標を定めます。そして、この目標を実現するにはふさわしい「探究課題」と「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を示した内容を設定します。この目標と内容に基づいた観点を設定することになる。

観点の設定に当たっては、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について、学習指導要領に示された三つの事項(小学校では、第5章第2の3(6))に配慮する。

具体的な学習状況の評価の方法については、信頼される評価の方法であること、多面的な評価の方法であること、学習状況の過程を評価する方法であること、の三つが重要。

【総合的な学習の
時間の記録】

特別活動の評価

各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。（高等学校は従前の文章記述を改める。小・中学校は従前と同様。）

改善等通知
小学校児童指導要録（参考様式）
様式2（指導に関する記録）表面

種別	学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総合
特別活動	1													
特別活動	2													
特別活動	3													
特別活動	4													
特別活動	5													
特別活動	6													
特別活動	7													
特別活動	8													
特別活動	9													
特別活動	10													
特別活動	11													
特別活動	12													

特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、各学校が評価の観点を定める。

特別活動の目標を踏まえ、例えば「よりよい生活を築くための知識・技能」「集団や社会の形成者としての思考・判断・表現」「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」(小学校の例)のように、具体的に観点を示すことが考えられる。

学級(ホームルーム)担任以外の教師が指導する活動が多いことから、評価体制を確立し、共通理解を図って、児童生徒のよさや可能性を多面的・総合的に評価する。

【特別活動の記録】
○印を付けた具体的な活動の状況等について、総合所見の欄に「特別活動における事実及び所見」として端的に記述することが考えられる。

※中学校生徒指導要録(参考様式)においても同様

学習評価を行う上での各学校における留意事項

評価の方針等の児童生徒との共有

学習評価の妥当性や信頼性を高めるとともに、児童生徒自身に学習の見通しをもたせるため、学習評価の方針を事前に児童生徒と共有する場面を必要に応じて設ける。

※児童生徒の発達段階等を踏まえ、適切な工夫が求められる。

(例) 小学校低学年の児童に対しては、学習の「めあて」などのわかりやすい言葉で伝える。

観点別学習状況の評価を行う場面の精選

観点別学習状況の評価に係る記録は、毎回の授業ではなく、単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに行うなど、評価場面を精選する。

※日々の授業における児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要。

学校全体としての組織的かつ計画的な取組

教師の勤務負担軽減を図りながら学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、学校全体としての組織的かつ計画的な取組を行うことが重要。

(例) ・教師同士での評価規準や評価方法の検討、明確化

・実践事例の蓄積・共有

・評価結果の検討等を通じた教師の力量の向上

・校内組織(学年会や教科等部会等)の活用

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (評価規準の作成及び評価方法の工夫等) 【案】

第1編 総説

第2編 各教科における「内容のまとめりごとの
評価規準」を作成する際の手順

第3編 評価に関する事例

現在使用している参考資料に変わり、
新編の参考資料を11月以降に発行予定



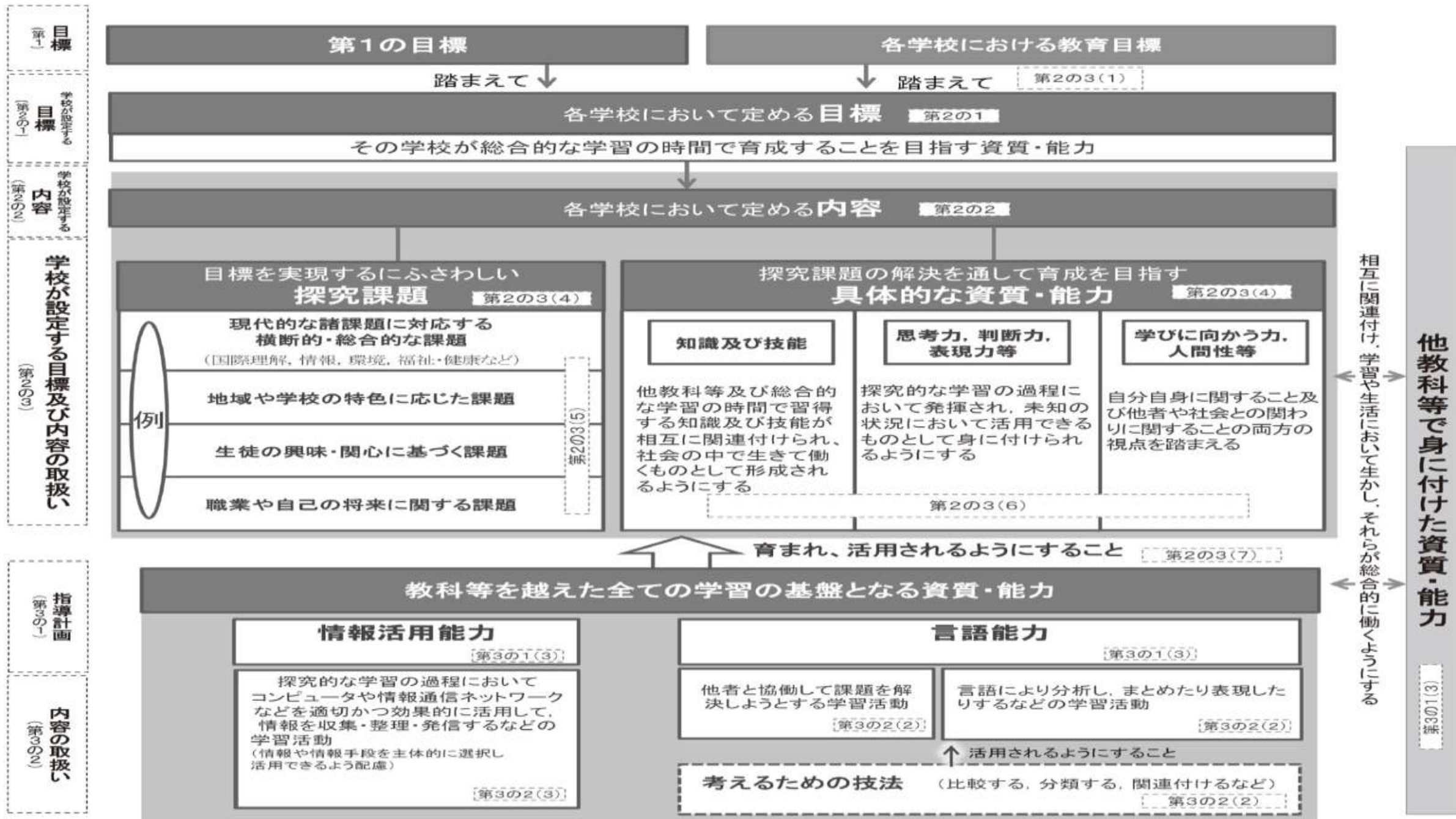
「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な手順

- ① 各学校において定めた目標(第2の1)と「評価の観点及びその趣旨」を確認する。
- ② 各学校において定めた内容の記述(探究課題ごとに作成した「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」)が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。



- ③ 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

第4章 総合的な学習の時間の構造イメージ（中学校）



(第1) 目標

(第2の1) 目標

(第2の2) 内容

(第2の3(a)) 学校が設定する目標及び内容の取扱い

(第3の1) 指導計画

(第3の2) 内容の取扱い

中学校総合的な学習の時間における「内容のまとめごとの評価規準」作成の手順

① 各学校において定めた目標（第2の1）と「評価の観点及びその趣旨」を確認する。

【A 中学校において定めた総合的な学習の時間の目標（例）】

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするため、以下の資質・能力を育成する。

	(1)	(2)	(3)
A 中学校において定めた目標	地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。	地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。	地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を養う。

【A 中学校において定めた総合的な学習の時間評価の観点の趣旨】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<p>地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解している。</p>	<p>地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付けている。</p>	<p>地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとしている。</p>

〔知識・技能〕の観点の趣旨の作成

学校において定めた目標のうち(1)の文末を「～について理解している」、「～を身に付けている」などとして設定することが考えられる。

〔思考・判断・表現〕の観点の趣旨の作成

学校において定めた目標のうち(2)の文末を「～している」として設定することが考えられる。

〔主体的に学習に取り組む態度〕の観点の趣旨の作成

学校において定めた目標のうち(3)の文末を「～しようとしている」として設定することが考えられる。

② 各学校において定めた内容の記述（探究課題ごとに作成した「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」）が、観点ごとにどのように整理されているかを確認する。

各学校において定める内容

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

目標を実現するにふさわしい探究課題

(1)

(2)

(3)

地域の自然環境と環境問題に
向き合う人々

- ・ 地域の自然環境やその自然環境を守ろうとしている人々の工夫や努力について理解する。
- ・ 生物はその周辺環境と関わって生きていることを理解する。
- ・ 地域の自然や環境を保全するためのアイデアや具体的な取組があることが分かる。

- ・ 地域の自然環境について、地域への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。
- ・ 手段を選択して情報を収集することができる。
- ・ 課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えることができる。
- ・ 相手や目的に応じて、分かりやすく表現することができる。

- ・ 課題解決に向け、自分のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとする。
- ・ 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとする。
- ・ 地域との関わりの中で自分でできることを見付けようとする。

Ⅲ 主体的・対話的で深い学び

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む
「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共
(仮称)」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を
構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

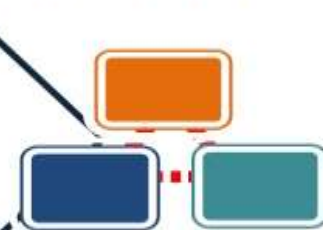
どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習
得など、新しい時代に求め
られる資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の
高い理解を図るための学習
過程の質的改善

深い学び
対話的な学び
主体的な学び



育成を目指す資質・能力の三つの柱

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

生きて働く
知識・技能の習得

理解していること・でき
ることをどう使うか

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

主体的・対話的で深い学びの実現

(「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善) について (イメージ)

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的 (アクティブ) に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- ・ 「キャリア・パスポート (仮称)」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



主体的な学び
対話的な学び

深い学び

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成



【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広める
- ・ あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- ・ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- ・ 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

Ⅲ 主体的・対話的で深い学び

主体的な学び

課題設定

実生活や実社会とつながりのある具体的な活動や体験

見通し

プロセスイメージ
ゴールイメージ

振り返り

学習内容の確認
関連付けや一般化
自己変容の自覚

**自分で自分の学びを
コントロール**

Ⅲ 主体的・対話的で深い学び

対話的な学び

知識や技能の構造化

多様な情報収集

新たな知の創造

異なる多様な他者との対話

Ⅲ 主体的・対話的で深い学び

深い学び

「知識・技能」が関連付いて構造化されたり身体化されたりして高度化し、駆動する状態（いつでもどこでも使いこなせるように動いている状態）に向かうこと

つなぐ、つながる、つなげる

学びに向かう力、
人間性等

他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける要素

資質・能力の育成は、知識及び技能の質や量に支えられている

未知の状況で活用可能な知識・技能
概念的知識

知識及び
技能

既知の知識

思考力、判
断力、表現
力等

深い理解を伴う知識を習得

学習活動によって獲得される
個別的で事実的な知識・技能

必要な新しい知識や技能を得るために既知の知識
や技能を未知の状況でどう活用するとよいか考える力

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び
技能

(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

思考力、判
断力、表現
力等

(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

学びに向かう力、
人間性等

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

Ⅲ 主体的・対話的で深い学び

総合的な学習の時間における

主体的・対話的で深い学びは・・・

第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1

(1) 年間や、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生徒や学校、地域の実態等に応じて、生徒が探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図ること。

見方・考え方

「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」

〔探究的な見方・考え方〕

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること

主体的な学びの視点による学習指導

学習活動を発展的に繰り返していく過程を重視

課題設定と振り返りの充実を図る

対話的な学びの視点による学習指導

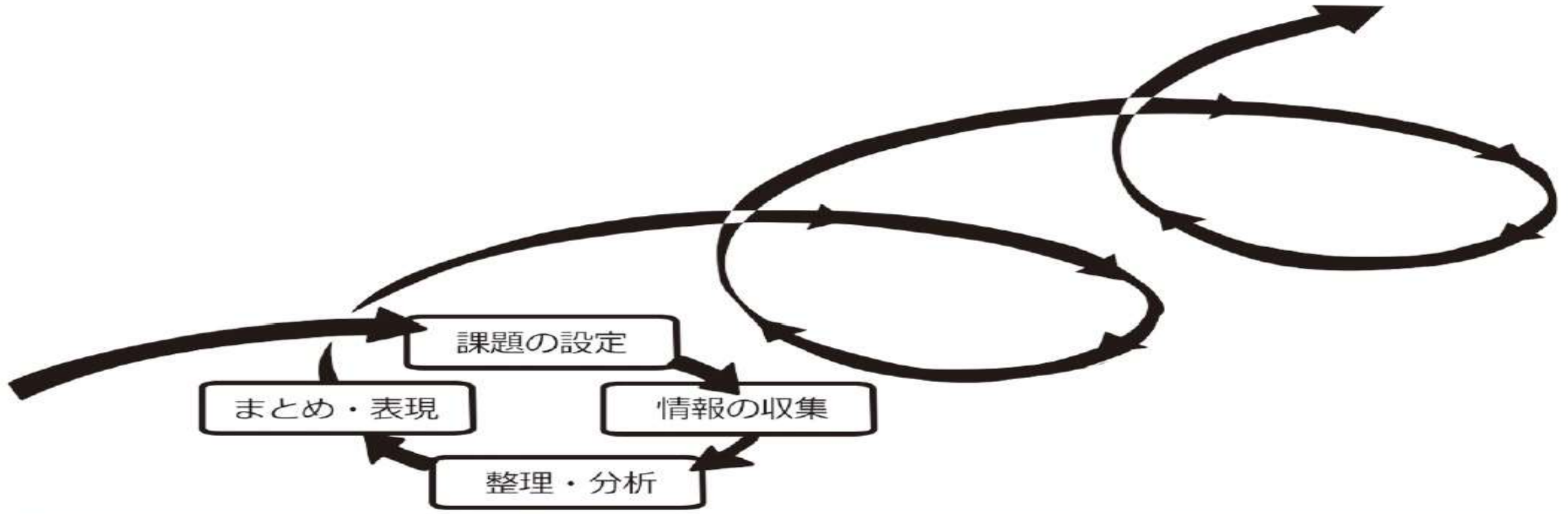
他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学びの充実を図る

深い学びの視点による学習指導

今まで以上に学習過程の質的向上を目指す

各教科等で身に付けた資質・能力を何度も活用・発揮できるような学習場面を生み出す

探究的な学習における生徒の学習の姿



■ 日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。

- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

IV 考えるための技法の活用

考えるための技法とは・・・

考える際に必要になる情報の処理方法を、例えば「比較する」、「分類する」、「関連付ける」など、技法のように様々な場面で具体的に使えるようにするもの

考えるための技法の例

順序付ける 比較する 分類する 関連付ける
多面的に見る・多角的に見る 理由付ける
見通す 具体化する 抽象化する 構造化する

IV 考えるための技法の活用

考えるための技法を意識的に使えるようにするために

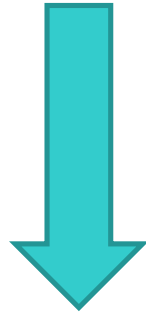
- 教師が声掛けする
- 可視化する

思考ツール

思考ツールの活用

～適切な思考方法で問題解決を図る手立て～

★思考ツール・・・「比べる」「分類する」「関連付ける」
「多面的に見る」などの思考方法の具
体化を図る手立て



可視化と操作化で自ら学び、共に学ぶ

□課題解決に適した方法で考え、解決を図れるよう
なる

思考ツール活用の留意点

- ①**必然性**・・・使う必要があるか
- ②**適合性**・・・させたい思考に合っているか
- ③**充足性**・・・充分活用できるものか
- ④**簡便性**・・・生徒に使いこなせるか

ボックスチャート

集めた情報を選んだりまとめたり
して意見を集約する

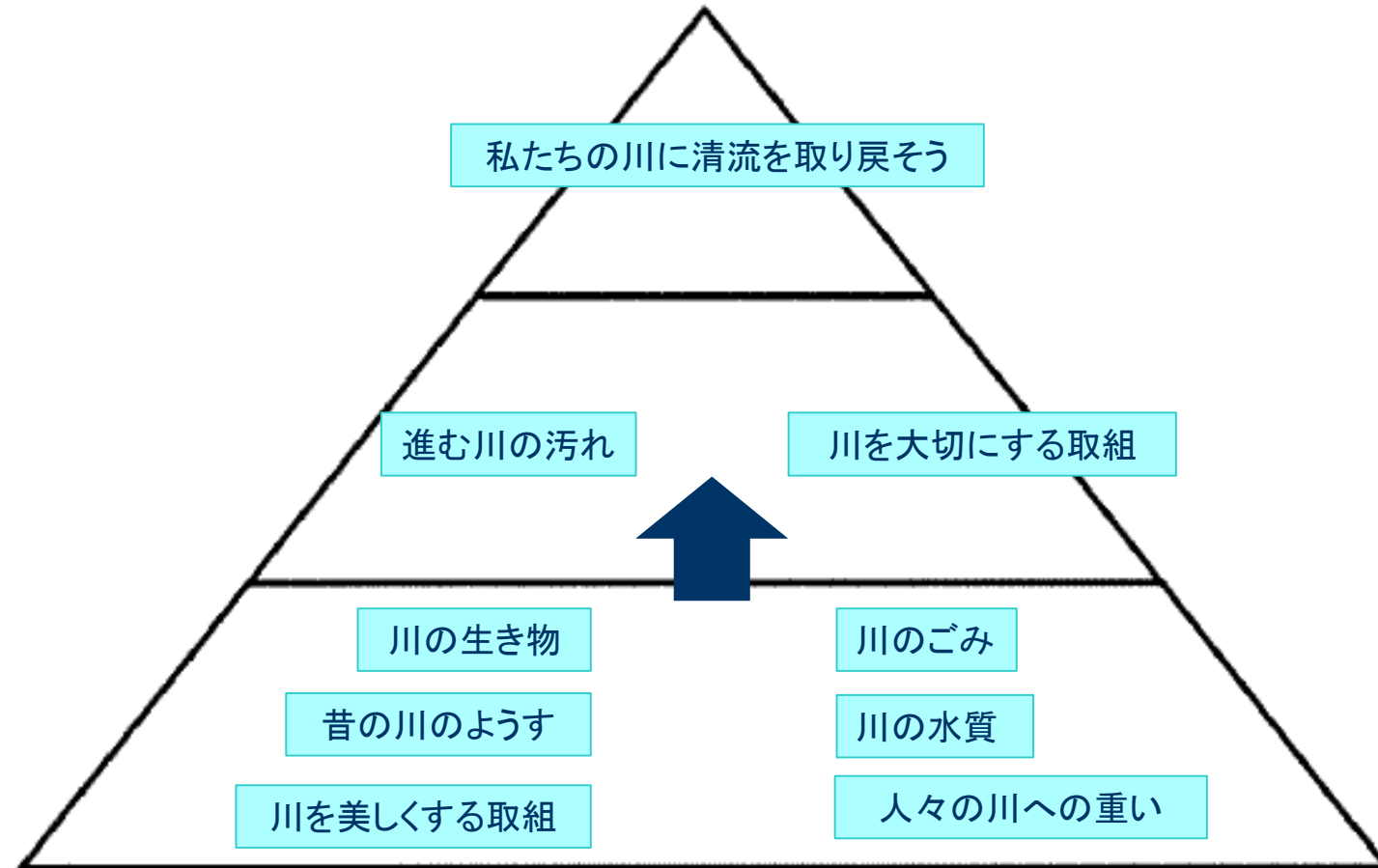


ピラミッドチャート

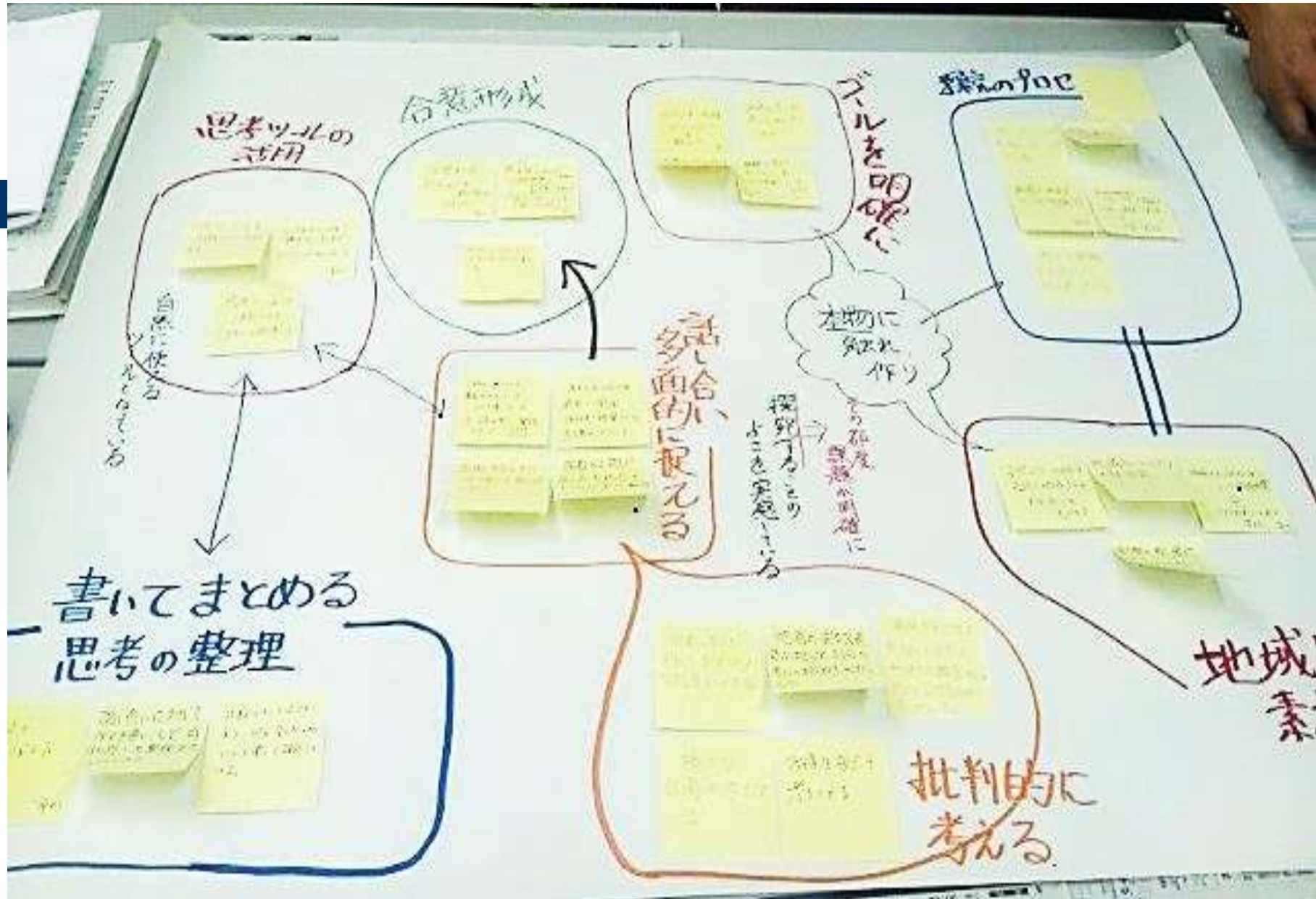


ピラミッドチャート

集めた情報を選んだりまとめたり
しながら最も主張すべき点を焦点化していく



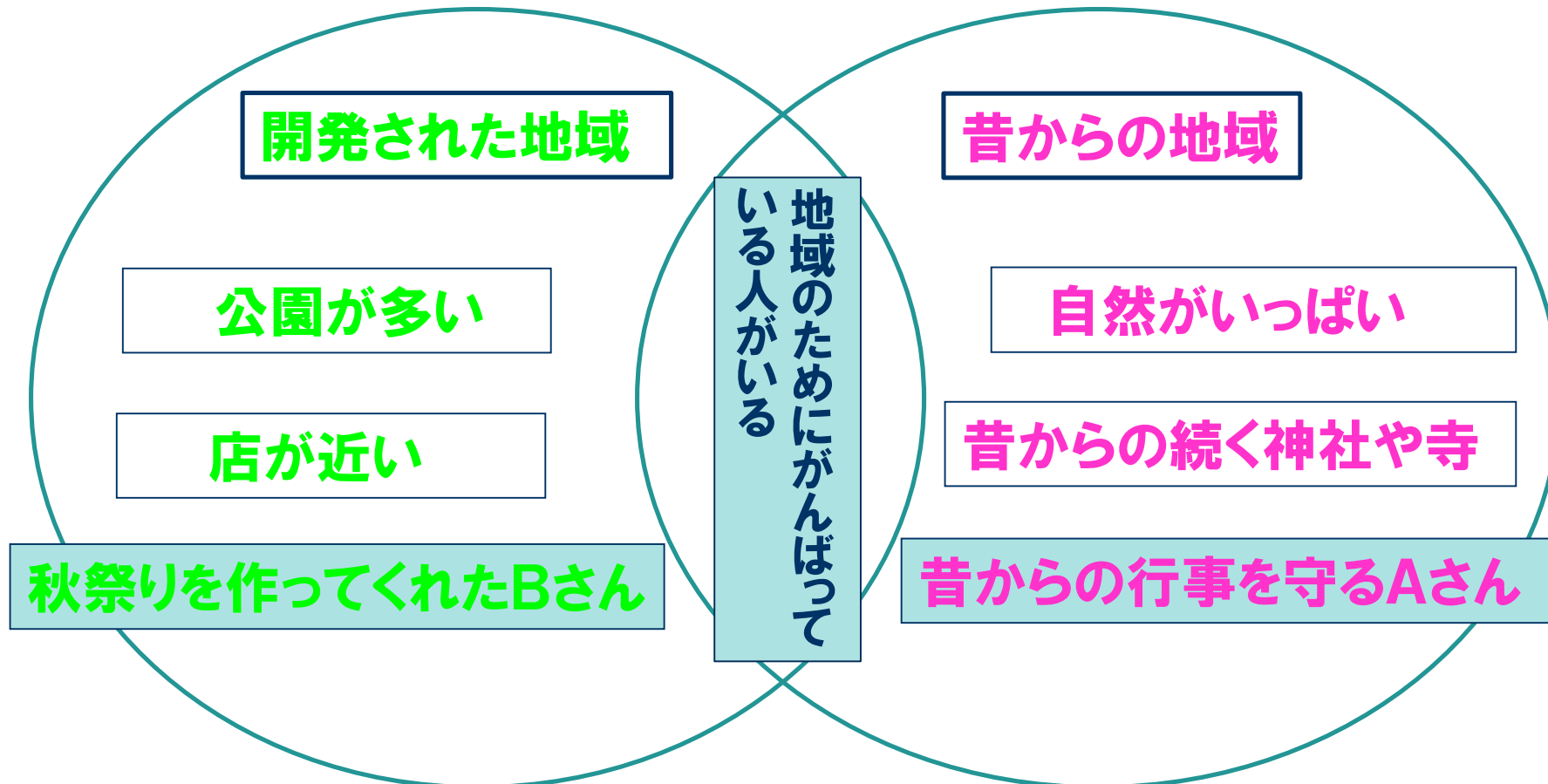
KJ法的な手法で分類



ベン図

～3年生 地域のよさを見付けよう～

「昔からの地域」と「開発された地域」のそれぞれのよさをベン図を通して、双方に共通するよさを見だし、地域への愛着を深める



ベン図

～3年生 地域の伝統野菜を育てよう～

育ててきた唐辛子に発生したアブラムシの退治方法を話し合い、
グループで最適な方法を選択する



22枚の付箋紙

安全性

最適な手段

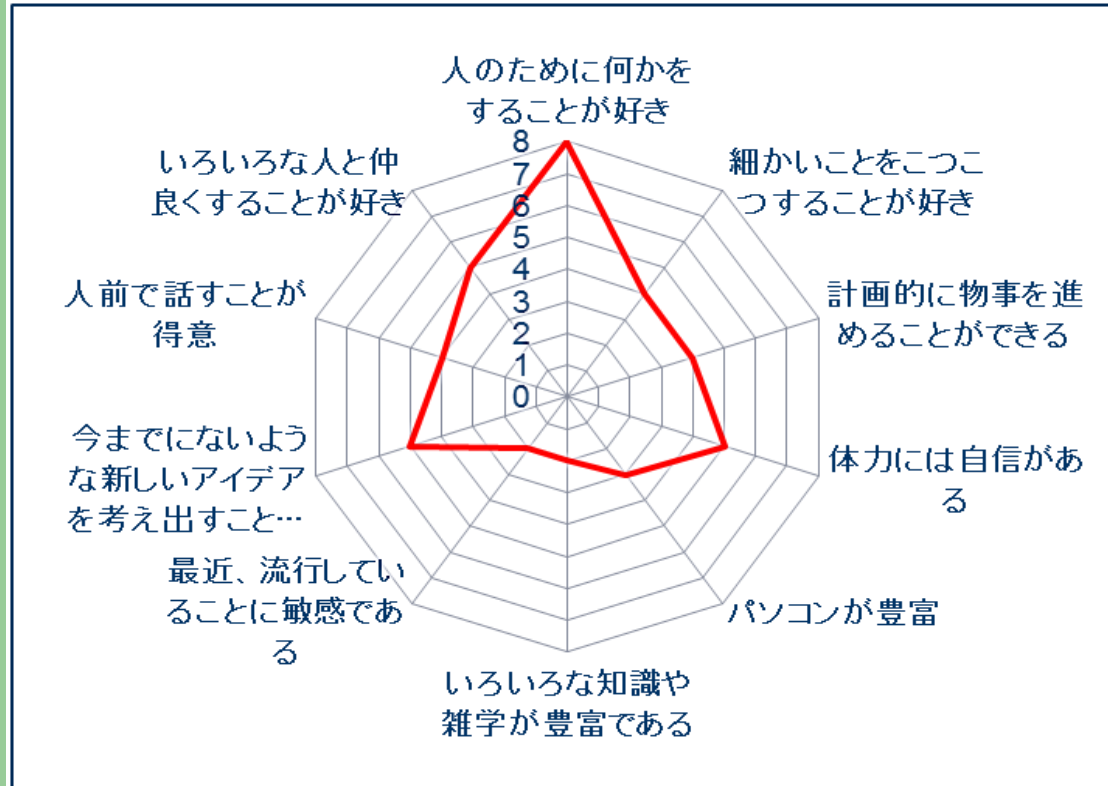
実現性

効果性

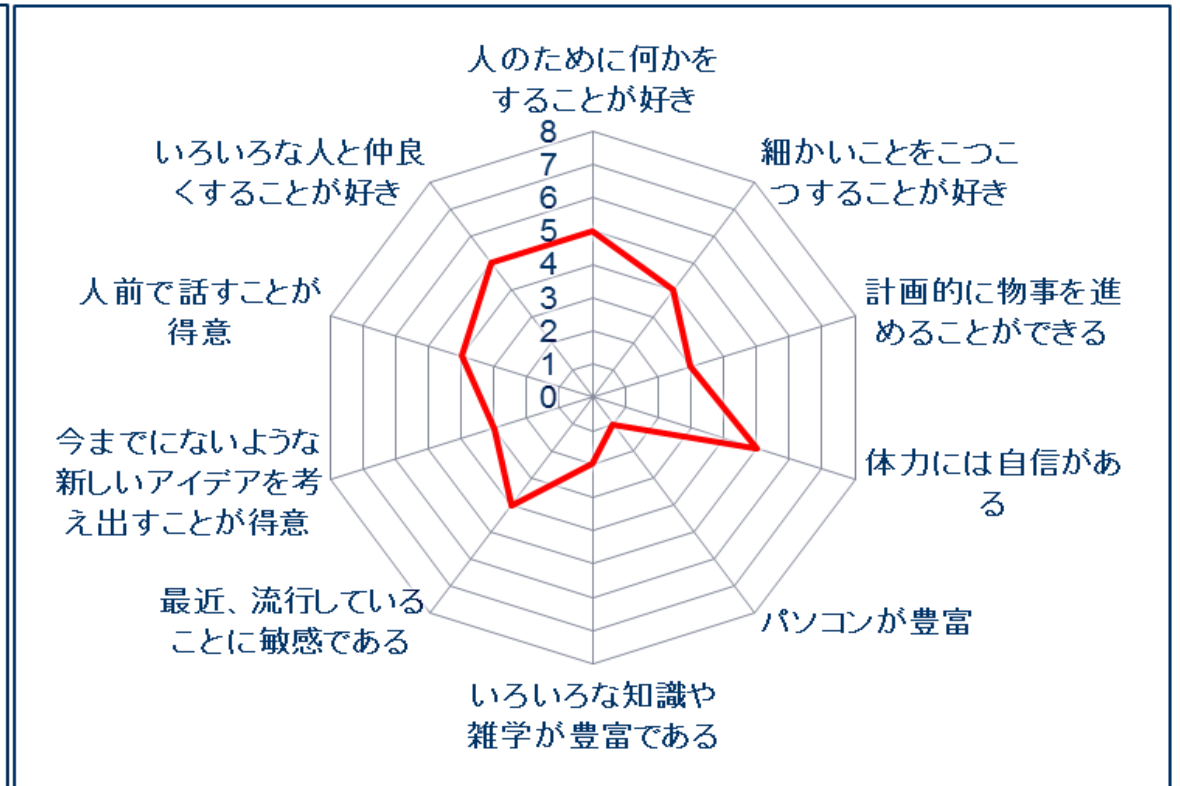
レーダーチャート 職業の特徴や適性を考えよう～中学2年生～

職場体験の前段として行った職場訪問で得た情報を、視点に基づいて分析し、レーダーチャートに整理しながら、職業の特徴や適性について自分の考えをもつ

特別養護老人ホーム



ホテル



職場体験を通して 自己の目指す姿を考えよう ～中学2年生～

自分の特性や職場の適性から、自分が職場で生かしたい力、身に付けるべき力などを踏まえ、職場体験を通して考えたい課題を設定する

特別養護老人ホームで体験

生徒A

「お年寄りとのコミュニケーションのとり方を知るとともに、お年寄りのために今、自分ができるとは何か」

産婦人科医院で体験

生徒B

「生命に関わる仕事で大切なことは何か」



インタビューの内容作成



職場体験

職場体験を通して 自己の目指す姿を考えよう ~中学2年生~

三つの視点でYチャートに整理し、課題の解決に向け考えを深める

①職場体験前 職業のイメージから 仕事・職業に大切なこと やりがい

大切なことは笑顔と体力、集中力だと思いました。また、助産師は自身自身の健康管理もとても大切なのはと思いました。新しい命の誕生を直接見ることに、命の大切さを実感したり、お母さんと喜びを分かち合えることもやりがいなのではないかと思いました。(浅利)

お母さんから無事に赤ちゃんが生まれ、元気にお母さんと赤ちゃんが退院できた時に、やりがいを感じているのではないかなと思いました。(馬場)

②体験して得た事実

今までつらい思いを沢山すると、相手のことを尊重しながら発言や行動をすることができるようになる。(西)

妊婦さんや赤ちゃんのことを一番に考えている。(津留崎)

赤ちゃんは、生まれて1週間~10日以内なら、お腹の中で聞いたお母さんの血液の音に似ている音を聞くのを聞くと、安心して泣き止むことがある。(西)

産後の出血は、通常500ml。(浅利)

妊娠中は、羊水1kg、胎盤1kg、赤ちゃん3kg、合わせて5kgがお腹の中に入っている。(浅利)

笑顔と健康と思いやりの心が大切。(津留崎)

母乳は1日15回~20回。(浅利)

妊娠中に亡くなってしまう赤ちゃんは、1年に一人いる。(浅利)

赤ちゃんは出産時、お母さんは出産後の出血時に一番亡くなりやすいので気を付けている。(馬場)

妊婦さんと話す時は、笑顔で優しく話すと安心してもらえる。(津留崎)

妊婦さんに安心して出産してもらうため、常に笑顔と優しさ、思いやりが必要だと思いました。(津留崎)

③体験して感じたこと 考えたこと 感動したこと

助産師さんは、赤ちゃんとお母さんのことを第一に考えていて素晴らしいと思った。(浅利)

妊婦さんと話す時に否定をしないと言っていました。安心して出産してもらえるためにしている心遣いに感動しました。(津留崎)

1ヶ月に4回夜勤があり、健康管理が大切で責任の重い仕事だと思った。(浅利)

私はコミュニケーション能力に乏しいので勉強になった。笑顔で話すことなど。(馬場)

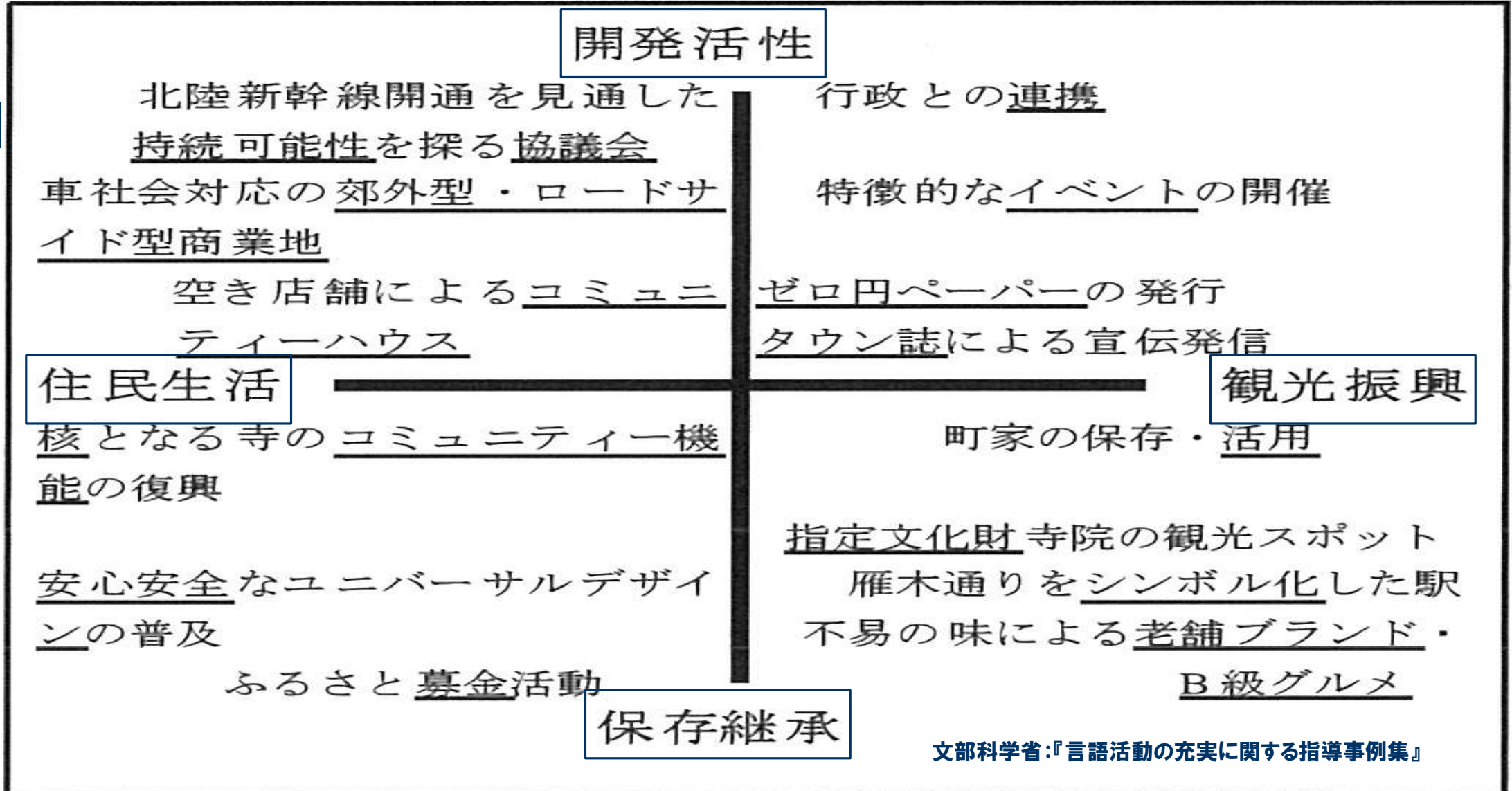
「赤ちゃんが泣くことは幸せである証拠」という言葉に心をひかれた。孤児院では泣くことをあきらめちゃう赤ちゃんもいるから。(馬場)

産婦人科で一番大切にしていることは、妊婦さんと赤ちゃんの命だと言っていました。自分のことより相手のことを考えていて優しいなって思いました。(津留崎)

助産師さんは、お母さんの相談を聞いてあげるなので、この仕事は優しさがないと働まらないと思った。(浅利)

座標軸

様々なまちづくりの要素を4象限に分類しまちづくりに対する
自分の考えをもとう ~中学1年生~



V 教科等横断的な視点に立った資質・能力

学習の基盤となる資質・能力

- 言語能力
- 情報活用能力
- 問題発見・解決能力 等

現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

- 伝統や文化に関する教育
- 郷土や地域に関する教育 等

V 教科等横断的な視点に立った資質・能力

◇教科等横断的な視点とは？

教科を越えて育成を目指す資質・能力を明確にした上で、各教科等の内容の関連部分を相互に関連付けながら、各教科等の役割を明確にして学習内容を捉えること

(例) 郷土学習により育成を目指す資質・能力

- 郷土の伝統や文化、人々のくらしに対する理解
- 郷土の文化財や伝統的な生活について、その歴史的背景、保存や継承のための取組などに着目して、その様子を捉え、郷土の人々の願いや努力などについて、考え、表現する力
- 郷土に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚をもち、地域の人々と主体的に関わろうとする態度

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

1 指導計画

全体計画

指導計画のうち、学校として、この時間の教育活動の基本的な在り方を示すもの。

年間指導計画

全体計画を踏まえ、その実現のために、どのような学習活動を、どのような時期に、どのように実施するのか等を示すもの。

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

2 全体計画に盛り込むべきもの

必須の要件として記すもの

- 各学校における教育目標
- 各学校において定める目標
- 各学校において定める内容

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

2 全体計画に盛り込むべきもの

基本的な内容や方針等を概括的に示すもの

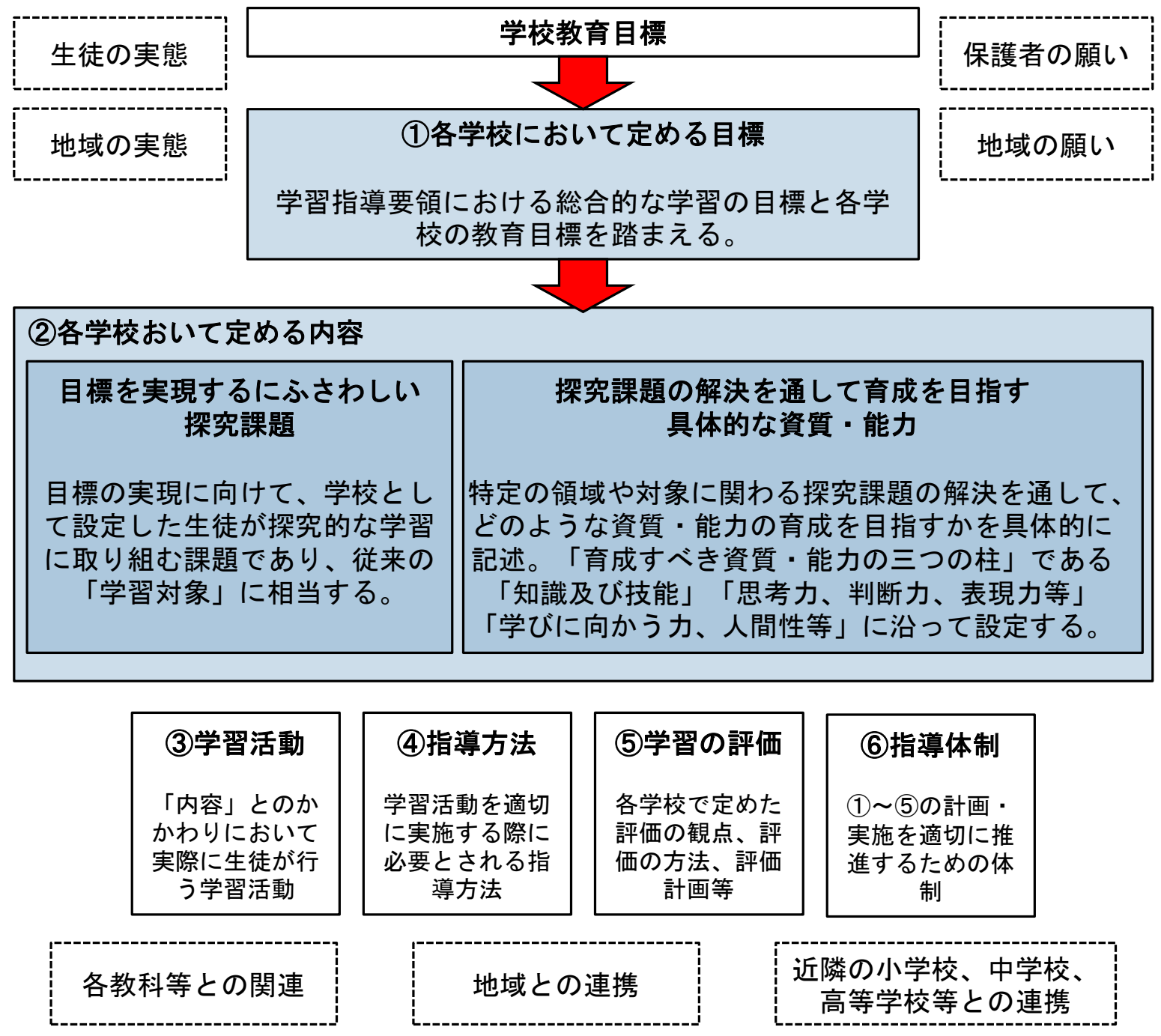
- 学習活動
- 指導方法
- 指導体制
- 学習の評価

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

2 全体計画に盛り込むべきもの

その他、各学校が必要と考えるもの

- 年度の重点、地域の実態、学校の実態、生徒の実態
保護者の願い、地域の願い、教職員の願い
- 各教科等との関連、地域との連携、小学校や高等学校等との連携、近隣の中学校との連携 など



全体計画の様式例



VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

3 各学校において定める目標の設定

第1の目標

各学校における教育目標

踏まえて

各学校において定める目標

具体化

重点化

付加

- ・ 育てたい生徒像
- ・ 育成を目指す資質・能力
- ・ 学習活動の在り方 など

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気づく。
- (2) 地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。
- (3) 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

3 各学校において定める目標の設定

目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

具体化

設定例

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

3 各学校において定める目標の設定

目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

設定例

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

重点化

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

3 各学校において定める目標の設定

目標

(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようになる。

設定例

(1) 地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。

具体化

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

3 各学校において定める目標の設定

目標

(2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

設定例

(2) 地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。

具体化

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

3 各学校において定める目標の設定

目標

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

設定例

(3) 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

付加

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

4 各学校が定める内容とは

目標を実現するのにふさわしい探究課題

目標の実現に向けて学校として設定した、生徒が探究的な学習に取り組む課題であり、従来「**学習対象**」として説明されてきたもの

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

各学校において定める目標に記された資質・能力を各探究課題に即して具体的に示したものであり、教師の適切な指導の下、生徒が各探究課題の解決に取り組む中で、育成することを旨とする資質・能力のこと

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

4 各学校が定める内容とは

目標を実現するのにふさわしい探究課題

- ① 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
- ② 地域や学校の特色に応じた課題
- ③ 生徒の興味・関心に基づく課題
- ④ 職業や自己の将来に関する課題

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

4 各学校が定める内容とは

目標を実現するのにふさわしい探究課題

① 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題

- ・ 国際理解：地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観
- ・ 情報：情報化の進展とそれに伴う日常生活や消費行動の変化
- ・ 環境：地域の自然環境とそこに起きている環境問題
- ・ 福祉：身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々
- ・ 健康：毎日の健康な生活とストレスのある社会
- ・ 資源エネルギー：自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題
- ・ 安全：安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々
- ・ 食：食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者
- ・ 科学技術：科学技術の進歩と自分たちの暮らしの変化 など

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

4 各学校が定める内容とは

目標を実現するのにふさわしい探究課題

②地域や学校の特徴に応じた課題

- 町づくり：町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織
- 伝統文化：地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々
- 地域経済：商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会
- 防災：防災のための安全な町づくりとその取組 など

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

4 各学校が定める内容とは

目標を実現するのにふさわしい探究課題

③生徒の興味・関心に基づく課題

- ・ものづくり：ものづくりの面白さや工夫と生活の発展
- ・生命：生命現象の神秘や不思議さと、そのすばらしさ など

④職業や自己の将来に関する課題

- ・職業：職業の選択と社会への貢献
- ・勤労：働くことの意味や働く人の夢や願い など

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

4 各学校が定める内容とは

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

①知識及び技能

②思考力、判断力、表現力等

③学びに向かう力、人間性等

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

4 各学校が定める内容とは

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

①知識及び技能

- (例)
- ・ 生物には、色、形、大きさなどに違いがあり、生育の環境が異なること（多様性）
 - ・ 身近な自然において、生物はその周辺の環境と関わって生きていること（相互性）
 - ・ 自然環境は、様々な要因で常に変化する可能性があり、一定ではないこと（有限性）

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

4 各学校が定める内容とは

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

②思考力、判断力、表現力等

第2 各学校において定める目標及び内容

3 各学校において定める目標及び内容の取扱い

(6) 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、次の事項に配慮すること

ア 知識及び技能については、他教科等及び総合的な学習の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること。

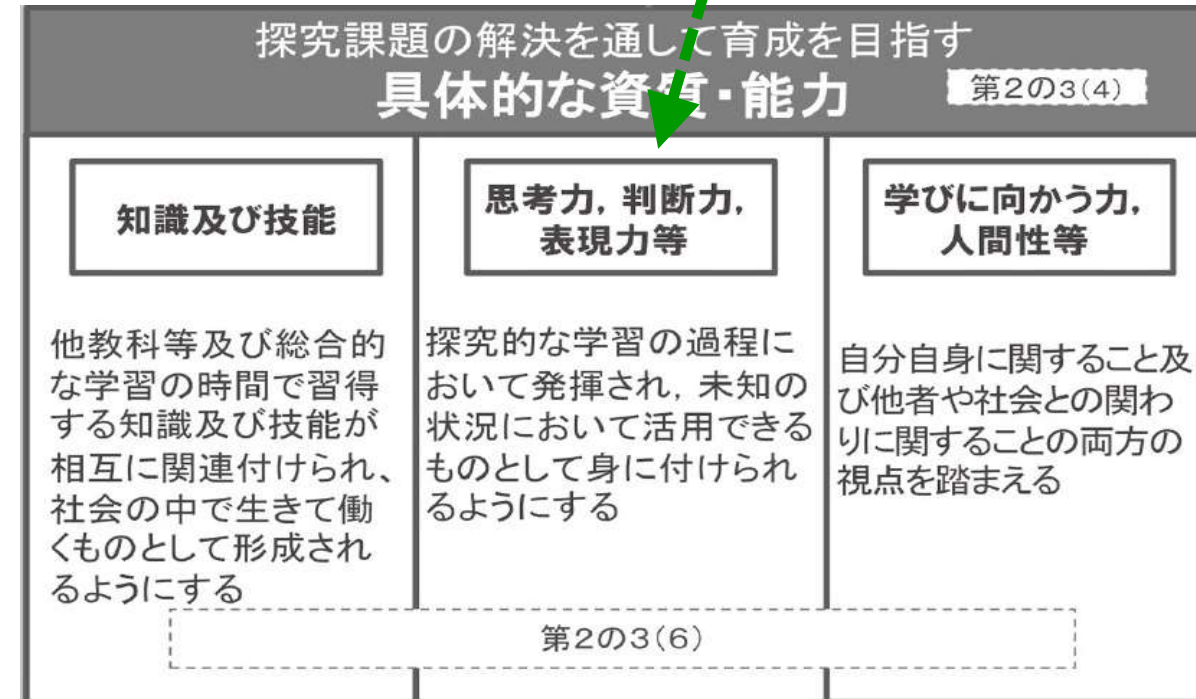
イ 思考力、判断力、表現力等については課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学習の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。

ウ 学びに向かう力、人間性等については自分自身に関する事及び他者や社会との関わりに関する事の両方の視点を踏まえること。

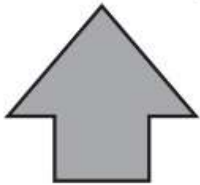
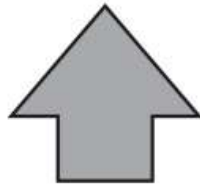
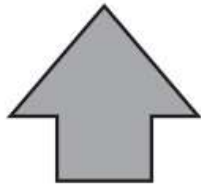
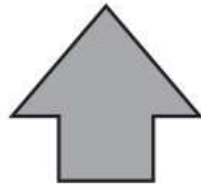
旧

第3の1(4)

育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関する事と、自分自身に関する事と、他者や社会とのかかわりに関する事などの視点を踏まえること。



探究の過程における思考力, 判断力, 表現力等の深まり(例)

①課題の設定	②情報の収集	③整理・分析	④まとめ・表現
<p>より複雑な問題状況 確かな見通し, 仮説</p>  <p>例) ■問題状況の中から課題を 発見し設定する ■解決の方法や手順を考え, 見通しをもって計画を立てる など</p>	<p>より効率的・効果的な手段 多様な方法からの選択</p>  <p>例) ■情報収集の手段を選択する ■必要な情報を収集し, 蓄積する など</p>	<p>より深い分析 確かな根拠付け</p>  <p>例) ■問題状況における事実や 関係を把握し, 理解する ■多様な情報にある特徴を 見付ける ■事象を比較したり関連付 けたりして課題解決に向 けて考える など</p>	<p>より論理的で効果的な表現 内省の深まり</p>  <p>例) ■相手や目的に応じてわか りやすくまとめ表現する ■学習の進め方や仕方を振 り返り, 学習や生活に生 かそうとする など</p>

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

4 各学校が定める内容とは

探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

③学びに向かう力、人間性等

第2 各学校において定める目標及び内容

3 各学校において定める目標及び内容の取扱い

(6) 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、次の事項に配慮すること

ア 知識及び技能については、他教科等及び総合的な学習の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること。

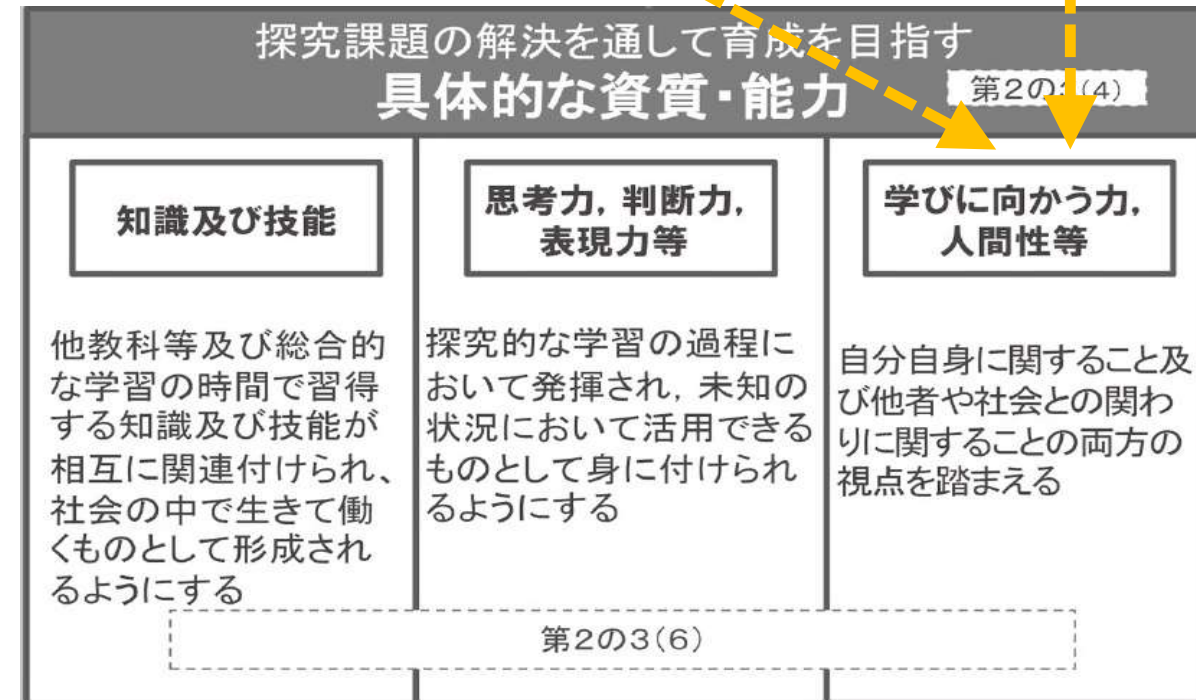
イ 思考力、判断力、表現力等については課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学習の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。

ウ 学びに向かう力、人間性等については自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。

旧

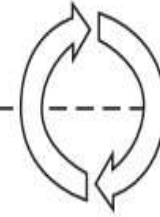
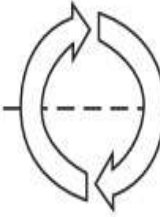
第3の1(4)

育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関することなどの視点を踏まえること。



学びに向かう力, 人間性等

	例) 自己理解・他者理解	例) 主体性・協働性	例) 将来展望・社会参画
自分自身に関する事	<p>探究的な活動を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする</p>	<p>自分の意思で、目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組もうとする</p>	<p>探究的な活動を通して、自己の生き方を考え、夢や希望などをもとうとする</p>
他者や社会との関わりに関する事	<p>探究的な活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする</p>	<p>自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究に取り組もうとする</p>	<p>探究的な活動を通して、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組もうとする</p>



視点		小学校	中学校	高等学校
学習方法に関すること	課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 問題状況の中から課題を発見し、設定する 解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する 仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な問題状況を踏まえて適切な課題を設定する 仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する
	収集分析	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を収集し分析する 手段を選択し、情報を収集する 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて手段を選択し、情報を収集する 必要な情報を収集し、多角的に分析する 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて臨機応変に適切な情報を収集する 必要な情報を収集し、多角的に分析する
	思考判断	<ul style="list-style-type: none"> 問題状況における事実や関係を把握し理解する 多様な情報の中にある特徴を見付ける 課題解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考える 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもつ 視点を定めて多様な情報を分析する 課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える 	<ul style="list-style-type: none"> 事実や関係を把握し、自分の考えをもつ 視点を定めて多様な情報を分析する 課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える
	表現省察	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現する 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとするなど 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的、意図に応じて、論理的に表現する 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとするなど 	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的、意図に応じて、手際よく論理的に表現する 学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かそうとするなど
自分自身に関すること	意思決定	<ul style="list-style-type: none"> 自らの行為について意思決定する 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの行為について責任をもって意思決定する 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの行為について当事者意識と責任感をもって意思決定する
	計画実行	<ul style="list-style-type: none"> 目標を設定し、課題の解決に向けて行動する 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に確実に行動する
	自己理解	<ul style="list-style-type: none"> 自らの生活の在り方を見直し、実践する 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの生活の在り方を見直し、日常的に実践する 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの生活の在り方を見直し、主体的に実践する
	将来展望	<ul style="list-style-type: none"> 自己の将来を考え、夢や希望をもつなど 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の将来を考え、夢や希望をもつなど 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の将来を考え、夢や希望をもつなど
他者や社会とのかわりに関すること	他者理解	<ul style="list-style-type: none"> 異なる意見や他者の考えを受け入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する
	協同	<ul style="list-style-type: none"> 他者と協同して課題を解決する 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する
	共生	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの環境とのかかわりを考えて生活する 	<ul style="list-style-type: none"> 環境の保全を考えて行動する 	<ul style="list-style-type: none"> 環境の保全について主体的、協同的に行動する
	社会参画	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に向けて地域の活動に参加するなど 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に向けて社会活動に参画するなど 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に向けて多様な社会活動に当事者意識をもって参画するなど

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

図3：育てようとする資質や能力及び態度の例

各学校において定める内容の具体例

目標を実現するにふさわしい

探究課題

第2の3(4)

〇〇町の伝統文化としての
の曳山及び学校の曳山に
関する特徴や歴史、曳山
を維持継承している人や
組織の存在、その人々の
思いや願い及び具体的な
取組 (伝統文化)

探究課題の解決を通して育成を目指す

具体的な資質・能力

第2の3(4)

知識及び技能

- ・ 〇〇町の伝統文化として曳山には特徴や歴史的背景、地域産業との関わりがあること
(固有性・相互性)
- ・ 曳山を維持継承している人々の思いやそこに存在する課題
(有限性・継承性)
- ・ 学校の曳山を受け継ぐことには価値があること
(協働性・創造性)

思考力、判断力、表現力等

- 〔課題の設定〕
曳山祭りに関心をもち、過去と現在の様子から課題を見付け～
- 〔情報の収集〕
曳山のよさに関する情報をアンケートや取材など多様な方法で収集しよう～
- 〔整理・分析〕
．．．．．～

学びに向かう力、人間性等

- ・ 曳山に関する活動を通して、伝統文化を継承しようと考えている方々と関わりながら、そのよさを追究しようとする。
- ・ 曳山祭りに向け、友達と協力して情報収集を繰り返す行い、～
- ・ 地域の伝統文化に参画できた自分自身に気づき、～

VI 総合的な学習の時間の指導計画の作成

5 年間指導計画の作成

総合的な学習の時間と各教科等の単元を関連付けた年間指導計画（例）

年間指導計画（第3学年）

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月					
総合的な学習の時間 (70) 探究課題「地域の自然環境とそこに起きている環境問題」	私たちの未来—今と昔、暮らしの変化を探ろう— ○昔の写真をもとに地域探訪し、地域の暮らしの変化を調査しよう ○暮らしの変化に伴い、私たちの目が変わったのか、どのような問題が生じたのか、豊かな自然とは何かについて議論しよう ○自分はどのように生活し、社会と関わっていくかまとめよう ・写真をもとにした地域探訪、インタビュー等の調査活動 ・エネルギー消費に関する講演会 ・電気を使わない生活体験（森林キャンプ） ・学びを通じて（振り返り）				私たちの未来—地球環境討論会— ○地球温暖化問題、水不足問題、食糧問題、エネルギー問題等の私たちの暮らしに関わる諸問題を、各国の主要エネルギーや資源事情、社会制度、歴史的背景、地理的要因、文化、人口などとの関係から整理しよう ○地球環境討論会を行い、世界や自分たちのこれからの在り方について様々な立場の人と議論しよう ○国際社会の在り方、関係づくり、自らの生き方についてまとめよう ・私たちの暮らしに関する講演会 ・ジグソー学習、ポスターセッション ・地球環境サミット ・学びを通じて（振り返り）								
	学習活動に関するガイダンス	地域探訪インタビュー等の調査活動	講演会森林キャンプに向けて	森林キャンプ	振り返り活動	講演会暮らしに関わる諸問題について整理	地球環境討論会・討論ブース準備・討論会	振り返り活動					
国語 (105)	競争	社会との関わりを伝えよう	相手や目的に応じたスピーチをする	魅力的な紙面を作ろう	もっと伝える表現を日ざして	「批評」の言葉をためる	新聞の社説を比較して読もう	「おくのほろ道」から	古典を心の中に	話し合ってみよう	話し合ってみよう	課題解決に向けて会議を開く	説得力のある文章を書こう
社会 (140)	近代国家の歩みと国際社会	二度の世界大戦と日本	現代に続く日本と世界	現代社会と私たちの生活		個人の尊厳と日本国憲法	現代の民主政治と社会	私たちの暮らしと経済	地球社会と私たち				
数学 (140)	式の展開と因数分解	平方根	2次方程式	関数		図形の相似	円周角と中心角	三平方の定理					
理科 (140)	生物の成長とふえ方	遺伝の規則性と遺伝子	水溶液とイオン	酸・アルカリと塩	力のつり合い	物体の運動	多様なエネルギーとその移り変わり	エネルギー資源とその利用	地球とその外側の世界	太陽と恒星の動き	自然界のつり合い	人間と環境	自然が人間の生活に及ぼす影響
音楽 (35)	情景をイメージしながら声部の役割を意識して歌おう	曲の構成を理解して、「ポレロ」を観賞しよう	言葉のリズムや抑揚を生かし、簡単な旋律を作ろう	歌詞の内容と曲想を理解して、混声合唱曲を歌おう			オーティキュレーションを工夫して表現豊かに演奏しよう		「荒城の月」の前奏をつくって演奏しよう			民謡の背景にふさわしい表現を工夫して歌おう	
美術 (35)	折りの造形	人の形に込めたもの		デザインで伝える			木でつくる工芸	光と明かり				自分と向き合う	
保健体育 (105)	体づくり運動		陸上競技		体づくり運動		球技（ベースボール型）	ダンス				器械運動	
	体育理論		健康な生活と病気の予防										
技術・家庭 (35)	エネルギー変換機器の仕組みと保守点検		住居の機能と住まい方				プログラムによる計画・制御	家庭生活と消費					